



ボンゴ

▶ レッスン動画は
こちら!



Bongo

豆知識

ボンゴはコンガと同様、カリブ海キューバから世界に広まったハンド・パーカッションの代表格。2つの太鼓がペアになっており、小さい方をマッチョ (Macho / スペイン語で「男」)、大きい方をエンブラ (Hembra / スペイン語で「女」、つまり男女がつかいになっているという素敵な楽器なのである。

ボンゴの選び方

ざっくり分けると……

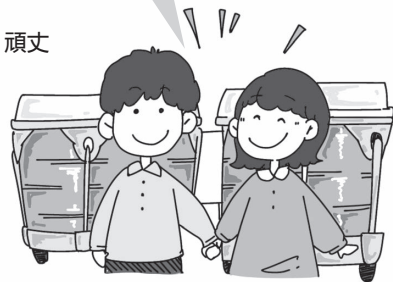
ボディ — **ウッド** → 中低音が鳴りやすい、温かい音、太い音、
ファイバーグラス → 高音が鳴りやすい、バンドの中で音が抜けやすい、頑丈

ヘッド — **本皮** → 表現力豊か、音が太い印象、中低音を出しやすい、湿度の影響を受ける (多湿 → 音が低くなる 乾燥 → 音が高くなる)、破れるリスクがある

樹脂 → 安定的、音が固く軽い印象、高音を出しやすい、湿度の影響を受けない、破れないので安心

※ボンゴのマッチョはかなりハイ・ピッチにチューニングするため

本皮は破れてしまうリスクが高く、ライブが多いプロの奏者は樹脂 (プラヘッド) を選ぶことが多い



サイズ マッチョとエンブラの打面サイズはメーカーや機種によって異なり、

●マッチョ……6 3/4"、7"、7 1/4"

●トウンバ (Tumbadora) ……8"、8 1/2"、8 5/8"、9"

と、かなりいろいろなサイズがあるので、購入時に必ず確認しよう。

ヘッド交換の際には特に注意が必要。

小口径は高音を、大口径は低音をそれぞれ鳴らしやすい。



からだの使い方

ボンゴも基本ジェンベやコンガと同様

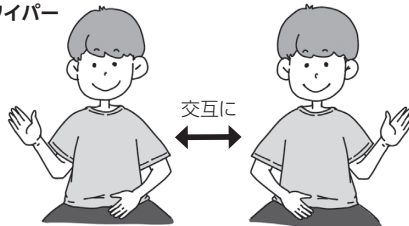
なんでやねんワイパー

で基本のストロークができます。さらに

ひじから指先までを ひとかたまりで扱います。

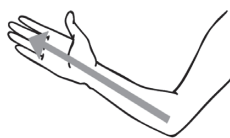
指先や手首でも鳴らせないことはないですが、軽い部分で鳴らそうと頑張って叩くと、怪我をしやすいです。なるべく腕の重さを使って余裕を持って鳴らせるようにしましょう。

なんでやねんワイパー



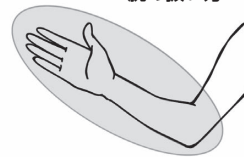
交互に

フォームのイメージ



ひじから人差し指&中指まで1本芯が通っている
(フォームをキープできる最低限のテンションをかける)

腕の扱い方



ひじから先をすべて一体として扱う
→腕の重さを使える、太い音や音圧を出せる

構え方

脚をひし形に開き、マッチョの側面を左足の内ももで、エンブラの側面を右足のふくらはぎではさむようにホールドします。

打面がなるべく上を向くように

椅子の高や脚の位置を調整して

横から見た角度が45°以下になるようにしましょう。

難しい場合はスタンドを使ってもOKです。



内ももとふくらはぎで
ボディをしっかりホールドします



45°以下

角度が大きいと、打面が横を向いてしまうので
最適な高さの椅子を選ぶのも重要